

大学院歌曲の祭典

2023年1月8日(日)

13:00 開演 12:30 開場

洗足学園音楽大学

シルバーマウンテン 1F

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

青山 昂正(1年)

平井康三郎(1910～2002) / 九十九里浜(北見志穂子)

1935年、昭和10年に発表されたこの曲は短い時間ながらも三部形式で構成されている。激しいピアノから突然始まったかと思えば、突然穏やかな3拍子が現れ、後半にかけて次第に盛り上がり華やかなエンディングを迎える。3分弱という短い時間の中で、作詞者の人生観を表現しているようにも感じる。これまでの荒波のような人生、穏やかな現在、明るく輝かしい未来に向けての希望。この曲に込められたドラマチックな情景をぜひ感じてほしい。

安井 円香(1年)

中田喜直(1923～2000) / むこうむこう(三井ふたばこ)
ゆく春(小野芳照)

〈むこうむこう〉

1964年にテノール用として作曲された。

(むこうむこう)という言葉の抑揚をごく自然に屈託なく旋律のなかに解き放った明るく親しみやすい小品歌曲。

明るい性格のなかにメロディーの動きも魅力的で、洒落た感覚が印象的。

〈ゆく春〉

春を惜しむような情緒溢れる曲。

春をたっぷり感じさせてくれる歌。

糸柳のしなやかな風情も色っぽい。

桜の花びらがチラチラと舞う景色も風情があって美しい。

関沢 茂樹(1年)

團伊玖磨(1924～2001) / 《5つの断章》より 舟唄-片戀- (北原白秋)
《わがうた》より ひぐらし(北山冬一郎)

〈舟唄-片戀-〉

歌曲集『5つの断章』全5曲から成る曲目で1946年に作曲され、戸田敏子さんが初演された。この曲の一番初めの言葉は「あかしや」という花の名前から入っており、ほとんどが黄色の花で品種によっては赤色の花もあるが歌詞の中には「金と赤」という言葉で書いており、これは秋の光で「あかしや」が金色や赤色に染められている描写を表している。この曲は、「ちるぞえな」という言葉がたくさん出てきます。そのリズムはタイでつながり *diminuendo* で終わっている。それは、まるで「あかしや」の花弁が一枚一枚散っていく様な悲しい曲となっている。

〈ひぐらし〉

北山冬一郎の詩集『祝婚歌』より5つの詩を選んで作曲された『わがうた』全5曲から成る組曲で1947年に作曲され、木下保さんが初演。この曲は8分の9拍子の曲でゆったりした曲となっている。最初は、「日暮れ、ひぐらし、、、」と始まって秋を思わせる。途中、「夕焼け、わが手を、、、」という部分があり、その部分は歌とピアノがそれぞれの表現をしているが、やがて一つの音楽として交わり *diminuendo* していく。叙情的で様々な感情を表し最後にだんだんと切なく消えていく曲となっている。

高津 琴音(1年)

木下牧子(1956～) / おんがく(まど・みちお)

まど・みちおの詩に曲をつけた作品を集めた混声合唱「うたよ！」として1995年に発表され、その後アカペラ合唱として作られた。

「おんがく」そのものへの根本的な喜びや嬉しさ、ながめたり、香りを五感で味わってみるといような幸せな気持ちが溢れているような曲。

QU YUQI クツ ウキ (2年)

木下牧子(1956～) / 《花のかず》より 竹とんぼに(岸田衿子)

全9曲から成る歌曲集《花のかず》の7曲目にあたる。岸田衿子は童謡を書くことが多かったが、この歌集の歌詞はそうではない。一体だれが誰に対して歌っている曲なんだろう？親が子供に、先生が学生に、それとも恋人に... 大切な人に向けて歌われる。母は子供が遠いところへ行ってしまふのがつらい、その未来への希望と可能性は果てしなく広がっていくのだが、不安な気持ちにもなる。

大切な人を見守る切なくも温かい気持ちが伝わってくる作品である。

GUO DACHU カク ダイソ (2年)

木下牧子(1956～) / 《愛する歌》より 雪の街(やなせたかし)

歌曲集「愛する歌」の6曲目。この歌は私の小さい頃の仲間との冬の時を思い出させる。一緒に山の中に遊びに行った時、空から白い雪の花が舞い落ちるのを見た。静かな夜に美しい月を伴って雪の花が空を白く染めて、とても美しかった。あの絵のような風景は深く私の脳裏に刻まれている。

SHU JINBIN ジョ キンヘイ (2年)

木下牧子(1956～) / 《愛する歌》より さびしいかしの木(やなせたかし)

山の上の一本のカシの木が、遠くの国に行きたいと空行く雲に頼み、一緒に暮らしたいと優しい風に頼むが、雲も風もどこかへ消えていってしまう。そして年老いたカシの木は、やがてその寂しさに「慣れてしまった」と締めくくられる。これといった救いも無いまま、寂しさが打ち消されることも無いままに。この歌詞は親の愛情が必要な幼少期に、父親は遠い国で亡くなり、母親とは再婚時の事情で一緒に暮らすことはできないという過酷な状況にあったやなせ氏の幼い頃の心情を反映しているように思う。

◇ 休憩 ◇

青山 昂正 (1年)

S.ドナウディ／いつまた君に逢えるだろうか

Stefano Donaudy (1879-1925) / Quando ti rivedrò (A.Donaudy)

『古典様式による 36 のアリア』として出版されたうちの一曲であるこの曲は、恋人と会えない辛い心情を歌った楽曲である。冒頭は悲壮感漂う伴奏と共にメロディーが歌われ、中間部では伴奏の美しい和声の移り変わりと共に焦燥感や気持ちの高ぶりが表現される。後半は冒頭と同じ歌詞で再度歌われるが、フェルマータやリタルダンドなどが用いられ、苦しい心情をさらに増幅している。変拍子によって、主人公の心の乱れが切に伝わってくる曲となっている。

ZHAO YUXIANG チョウ ウシヨウ (1年)

P.トスティ／最後の歌

Paolo Tosti (1846-1916) / L'ultima canzone (Cimmino)

この曲には愛情によってもたらされる苦しみが表現されている。明日、他の男性と結婚するかつての恋人であるニーナをいまだに愛している主人公は、現実を受け止めきれずに悲しんでいる。愛し合っていた二人の思い出を胸に、題名にある通り「最後の歌」を歌い、今でも愛していることを伝えようとしている。曲は2番まであり、一曲を通して追い立てるような伴奏と「ritardando」と「a tempo」の繰り返しによって起こる緩急によって主人公の苦悩が表わされている。最後の部分には「Ah! ああ!」という感嘆詞が長い旋律によって2度歌われ、彼女への想いを届けている。

CHENG XINYI テイ シンギ (1年)

O.レスピーギ／《4つの抒情詩－アルメニアの詩人による詩》より ママは温かいパンのよう

Ottorino Respighi (1879-1936) / 《Quattro liriche-poeti armeni》 La mamma è come il pane caldo (Zarian)

1921年に作曲された歌曲集《4つの抒情詩－アルメニアの詩人による詩》の第2曲目にあたる。原詩はコスタント・ザーリアンの短い詩により、比喩的な方法で家族の三人(母、父、兄)の全く異なる性格を語っている。基本的な旋律線は柔らかく、軽やかなものとなっているが、曲の途中ではクレッシェンドを伴いながらフォルテになり、最後には再び穏やかな旋律線になるなどの変化がある。比喩を用いた詩と動きのある音楽で、聴衆の想像力が掻き立てられるような曲となっている。

WU WENXI ゴ ブンキ (1年)

O.レスピーギ／《トスカーナ地方の4つの恋歌》より 我が子を見に来ておくれ

Ottorino Respighi (1879-1936) / 《Quattro rispetti toscani》 Venitelo a vedere (Birga)

歌曲集《トスカーナ地方の4つのリスペット》の第2曲目です。トスカーナ地方はイタリア北部のフィレンツェを中心とした地域で、その地域の民謡を素材とした4曲からなる歌曲集です。この曲の主人公は母親で、揺りかごの中の自分の子供をとっても愛らしいと思っています。途中で「zitto!... 静かに!...」という歌詞と共に流れるような音楽が変化し、一瞬緊張に包まれますが、我が子が笑いながらよく眠っていることが分かった後はまた安心して歌い始めます。天使のような我が子に対する愛情が、素朴な歌詞と子守歌のように静かで柔らかい旋律の音楽に表れています。

作間 優奈 (1年)

O.レスピーギ／《トスカーナ地方の4つの恋歌》より あなたが生まれた時

Ottorino Respighi (1879-1936) / 《Quattro rispetti toscani》 Quando nasceste voi (Birga)

4曲からなる歌曲集《トスカーナ地方の4つのリスペット》の第1曲目にあたる。リスペットは「恋歌」と訳されていることもあるが、必ずしも恋の歌というわけではなく「詩のスタイル」のことを言う。4曲それぞれのテーマがあるが、この曲では母親が、我が子が生まれた喜びを歌っていて、動物や自然界のものなど、色々なものに愛されて生まれてきたように感じている。伴奏にも終始追い立てるような旋律があり、歓喜しているようなリズムとなっている。流麗なメロディーを基本としているが、歌詞が台詞調となっているため、歌詞の中に出てくるキャラクターに合わせて音楽が様々に変化するのがこの曲の特徴である。

ZHANG YU チョウ ウ (1年)

E.ヴォルフ＝フェラーリ／《4つのリスペット 作品11》より あなたを捨てるなんて

Ermanno Wolf-Ferrari (1876-1948) /

《Quattro rispetti Op.11》 E tanto c'e pericol ch'io ti lasci (作詞者不明)

歌曲集《4つのリスペット 作品11》の第3曲目で、前半と後半の二部形式となっている。前半は長調の穏やかで流麗な曲調となっていて、明るく温かみのある音楽である。しかし後半は対称的に短調となり、歌唱旋律は半音を伴いながら上行した後にフォルティッシモに至り、感情が高潮していく。女性が恋人に対して「海の中に庭を造って囲い、その中にジャスミンの花を植えて、その花が咲いてしまったら私たちは分かれる運命にある」と語る内容で、彼の浮気を心配している様子が音楽にも多大に表現されている。

朝比奈 桃子 (1年)

E.ヴォルフ＝フェラーリ／《イタリア詩集 作品17》より お母さん、私を一人で外に出さないで

Ermanno Wolf-Ferrari (1876-1948) /

《Il canzoniere italiano op.17》 Mamma, non mi mandate fuori sola (作詞者不明)

主人公である少女が学校の同級生の男の子に恋をし、その感情を母親に訴えている様子が描かれている。彼との思い出を夢心地に語ったり、どうすれば良いか分からずに焦っている様子や興奮気味に話している様子が、フェルマータやソステヌート等の速度変化によって表現され、揺れ動く少女の純粹さを感じることが出来る。また、伴奏に繰り返し見られるスタッカートが付いた付点の旋律は少女がスキップをしているようにも感じられ、軽やかな音形となっている。曲が進むにつれて感情は湧き上がり、少女が彼への想いを一言呟くような語り口調の旋律で締め括られる。

稲葉 みのり (1年)

R.レオンカヴァッロ／もし！…

Ruggero Leoncavallo (1857-1919) / Se!... (Leoncavallo)

詩は、台本作家でもあったこの曲の作曲者自身であるレオンカヴァッロによって書かれている。「もし～だったら」という過程をして女性目線で歌われている曲である。「花の香りは恋人の香り」、「穏やかな波は恋人の胸」、「空に輝く星は恋人の目」、「青い海は恋人の眼差し」、「夜明けの金色の輝きは恋人のブロンドの髪」、というように自分の恋人を自然のものから連想して讃えている詩となっている。しかし、どれも恋人に勝るものではないとも語っていて、最初に「amoroso 愛情を込めて」という指示にある通り、曲全体が彼への愛に満ちた優しい雰囲気となっている。

松本 明音 (1年)

A.カタラーニ／口づけもなく

Alfredo Catalani (1854-1893) / Senza baci (Contessa Lara)

この曲には、愛する人と離れてしまい、その人がまた自分に会いに帰ってくる日を待ち侘びている女性の心情が描かれている。伯爵夫人ラーラによるこの詩からは、2人が日常的に会えるような関係でないことが推測される。悲しみに暮れた女性の心情を表す、重たく暗い和音から始まり、女性が恋人に想いを馳せるにつれ、柔らかく優しい音に変化していく。曲の最後には、「あなたの腕の中で今度こそ生きていきたい」という女性の強い願いが「animando 活気を付けて」の音楽用語やフェルマータを伴った情感溢れる音楽に表現されている。

歌曲研究 フランス

指導教員 土屋 雅子／ピアノ 服部 真由子

西村 理菜 (2年)

M.ラヴェル / 《五つのギリシャ民謡》より

Maurice Ravel (1875-1937) // "Cinq mélodies populaires grecques" (Calvocoressi)

彼方の教会のほうへ	Là-bas, vers l'église
俺に負けない伊達男は	Quel galant m'est comparable
思いっきり陽気に	Tout gai !

音楽学者カルヴォコレッシがソルボンヌ大学の講演のために、ギリシャのキオス島で口承されて来た民謡の歌のパートのみの楽譜から、詞をフランス語に訳し、友人のラヴェルに伴奏部分の作曲を依頼したものである。全5曲から構成され、それぞれ異なる曲調のコントラストを楽しむことができる、異国情緒に富んだ面白い作品である。今回抜粋した3曲でも様々な情景が見られる。〈彼方の教会のほうへ〉では、勇敢な戦死者たちの眠る教会へと向かう参拝者の敬虔な様子と物悲しい様子が語られ、〈俺に負けない伊達男は〉では、自信に満ち溢れた伊達男も愛しのヴァシリキ夫人の前ではどこか余裕を無くし、〈思いっきり陽気に〉では、酒場で酔っばらい達がどんちゃん騒ぎを繰り広げる。

芳村 早紀子 (2年)

F.プーランク / 《偽りの婚約》より

Francis Poulenc (1899-1963) // "Fiançailles pour rire" (Vilmorin)

アンドレの夫人	Dame André
飛んでいる	Il vole
ヴァイオリン	Violon

プーランクがルイーズ・ド・ヴィルモランの詩に1939年に作曲した6曲からなる歌曲集である。その中から今回、第1曲、第3曲、第6曲を演奏する。〈アンドレの夫人〉は、自分が出会った夫人が、生涯にわたって大切な人なのか、それとも行きずりの気まぐれにすぎないのか自問する。〈飛んでいる〉は、Il voleというフランス語に「飛ぶ」と「盗む」という二つの意味があり、それを掛けた「カラスは飛び、私の恋人は盗む」など、幾つかの言葉遊びが用いられている。〈ヴァイオリン〉は、ひとりの上品な婦人が、ハンガリーのナイトクラブで、ヴァイオリンとそのヴァイオリンを弾いている人に心から感動しているところである、と親友のピエール・ベルナックが述べている。

◇ 休憩 ◇

高津 琴音 (1年)

F.シューベルト / 春への想い

Franz Schubert (1797-1828) // Frühlingsglaube D686

フランツ・シューベルトによって1820年に書かれた。詩はハインリッヒ・ウーラントのもの。休みなく流れていく伴奏は、春の風がどこからともなく吹いているような旋律で、花の新鮮な香りや春の暖かさなどが表されている。1、2番の最後は「さあ、哀れな心よ、不安を捨てろ!」「今すべてが、変わるのだ」という歌詞で、前向きに変化する心情を歌っている。

ZHAO YUXIANG チョウ ウシヨウ (1年)

F. シューベルト / 夜と夢

Franz Schubert (1797-1828) // Nacht und Träume (Collin) D827

〈夜と夢〉は、1823年に作曲された、とても美しい曲です。夜の美しさがきちんと表現された時、夜の神々しさも表れます。曲の伴奏は、全部16分音符で弾きますが、歌う時に夜の姿を描くように、柔らかい音楽を表現すれば、美しい曲ができます。しかし、この曲は夜だけではなく、夢の甘さが入らなければ、曲は片言になりやすいでしょう。夜の美しさを表現すると同時に、夢の甘さを表現すれば、完全体の夜と夢ができるといえます。

ZHANG YU チョウ ウ (1年)

R.シューマン / 歌曲集《ミルテの花》より 献呈

Robert Schumann (1810-1856) // 《Myrthen》(Rückert) Op.25-1

1. Widmung

〈献呈〉はシューマンの名曲の一つである。この曲の歌詞は、1823年に出版された、ロマン派の詩人リュッケルトの作品集《愛の春》に収録された愛の詩である。この詩の中で、詩人は愛するもう一人の自分を「魂」「喜び」「世界」「天国」に例えている。それは生命のすべてとも言える。シューマンはこの詩を妻クララに捧げ、彼女への激しい愛情を楽曲に表現した。曲の構成は短く、簡潔である。形は三部形式。曲全体はInnig lebhaft (内面的に深く、活動的で情熱的に)と表記されている。

上原 愛美 (1年)

R.シューマン / 歌曲集『女の愛と生涯』より

Robert Schumann (1810-1856) // 《Frauenliebe und Leben》(Chamisso) Op.42

2. すべての中で最も素晴らしい人である彼 Er, der Herrlichste von allen

4. 私の指にはまっている指輪であるお前よ Du Ring an meinem Finger

ロベルト・シューマン作曲の《女の愛と生涯》は、1840年に作曲された連作歌曲である。この年は彼が名ピアニストのクララと結婚した年で、かつ多くの歌曲を作曲した「歌曲の年」とも呼ばれる。同年に作曲された有名な歌曲集に《ミルテの花》《リーダークライス》《詩人の恋》などがある。

詩はシャミッソーによる。その名の通り女性が恋をし、結婚出産を経て、最愛の人と死別するまでを描いている。しかし今日では男性側が抱く女性への理想と言われることも多い。家庭的で従順かつ貞節な女性だ。40歳を過ぎて16歳の妻を手に入れたシャミッソーの詩に、9歳年下のクララと裁判をしてまで結婚したシューマンは何か感じるものがあつたに違いない。

今回演奏する2曲目の〈すべての中で最も素晴らしい人である彼〉は、付き合う彼に夢中な時のどうしようもない明るい感情を、4曲目の〈私の指にはまっている指輪であるお前よ〉は、プロポーズされ指輪をはめ、

結婚へ進む女性の喜びを描いている。

QU YUQI クツ ウキ (2年)

F.シューベルト / 至福

Franz Schubert (1797-1828) // Seligkeit (Hölty) D433

オーストリアの作曲家シューベルトが1816年5月、19歳のときに書いた、ヘルティの詩による作品。〈幸福〉とも訳される。

名のおり、幸福感にあふれたとても素敵な曲。品がよく、かわいらしく、楽しく。詩は三節からなり、第一節と第二節が、素晴らしいと神父から聞いた天国への限りない憧憬を歌い、第三節は「でも、たとえどんなに天国が素晴らしくても、恋人のラウラがほほ笑むここにいるのが一番幸せだ」と締めくくられる。

SHU JINBIN ジョ キンヘイ (2年)

F.シューベルト / 歌曲集《冬の旅》より 菩提樹

Franz Schubert (1797-1828) // 《Winterreise》(Müller) D911

5. Der Lindenbaum

〈Der Lindenbaum (菩提樹)〉は、オーストリアの作曲家フランツ・シューベルトによって書かれた歌曲集《冬の旅》の5曲目にあたります。

彼の作品群の中でも異彩を放つ作品となっています。全編に漂う孤独感と暗鬱さはすべての歌曲の中でも独特の地位を占めるものです。この歌曲集では、失恋した若者が町を捨てて放浪の旅を続けていく姿が描かれており、全曲を通して疎外感や絶望と悲しみが強く表現されています。

Lindenbaum はドイツ文学においては愛の木、恋人たちの逢引き場所を象徴します。その他、母性や豊穰、守護や調和、あるいは踊りや祭りも表します。アジア圏での菩提樹は、仏教の教祖であるお釈迦様が、この木の下で悟りを開いたといわれている木なので、古くから人間と関わりのあった木であることは間違いなさそうです。

稲葉みのり (1年)

F.メンデルスゾーン / 新しい恋

Felix Mendelssohn (1809-1847) // Neue Liebe (Heine) Op.19-4

メンデルスゾーンの歌曲集《6つの歌 作品19》のうちの第4曲にあたる。詩は、ハインリヒ・ハイネによって書かれている。

曲想は神秘的で、自分でも想像がつかない何かが起こりそうな予感を思わせる。

一番は sempre staccato(常に音を短く切って)で、妖精が馬に乗って跳ねている様子、角笛や鈴が鳴っている様子が表れている。二番は、角を生やした白い馬が空を滑るように飛ぶ姿が、レガートで表現されている。三番は、妖精の女王に微笑まれた主人公の心拍数が上がっている様子が表れている。

GUO DACHU カク ダイソ (2年)

R.シューマン / 歌曲集《ミルテの花》より 献呈

Robert Schumann (1810-1856) // 《Myrthen》(Rückert) Op.25

1. Widmung

ロベルト・シューマンが作曲した〈Widmung (献呈)〉は、歌曲集《ミルテの花 (Myrthen)》作品25の中の第1曲目です。詩は、フリードリヒ・リュッケルト(Friedrich Rückert, 1788-1866)によるものです。

《ミルテの花》はシューマンの「歌曲の年」と呼ばれる 1840 年に作曲されています。そして、シューマンの結婚式の前日に妻となるクララに捧げられた歌曲集です。この歌曲集にはクララへの愛が沢山詰まっています。

このミルテという花、日本名はギンバイカ(銀梅花)といます。夏に咲く白い花は、5 枚の花びらと長いおしべをもち、確かに梅の花に少し似ています。ミルテの花は、昔から結婚式のブーケなどに使われるなど、結婚とか不滅の愛と強く結びついています。音楽に登場する場合も、結婚と関係のある作品が多いといえます。

CHENG XINYI ティ シンギ (1 年)

R.シュトラウス / ああ恋人よ、ぼくは今お別れしなければならない

Richard Strauss (1864-1949) // Ach Lieb, ich mu β nun scheiden (Dahn) Op.21-3

〈ああ恋人よ、ぼくは今お別れしなければならない〉は、リヒャルト・シュトラウスの作品で、1888 年に作曲された《素朴な歌》の中の 1 曲。《素朴な歌》Op.21 の作品中、〈ああ恋人よ、ぼくは今お別れしなければならない〉は、唯一別れの苦しみを描いた曲である。曲全体のメロディーは穏やかで飄々としていて、簡素なリズムのメロディーで、愛する人から離れる悲しみを伝えた。詩の作者は、恋人と一緒に歩いた山や谷の木々を擬人化している。恋人と別れた後、主人公は一人で再びこれらの風景を見ても、もう美しさを感じられず、泣いている木だけが描かれている。私たちの愛がどんなにすばらしかったかを見て、別れてからは感情のない木さえ悲しくなった。最後のメロディーが、強音から次第に弱まってゆっくりと終わるにつれて、すべての思い出は無限の想像を残して消えていくように思われる。

WU WENXI ゴ ブンキ (1 年)

R.シュトラウス / 万霊節

Richard Strauss (1864-1949) // Allerseelen (Gilm) Op.10-8

〈Allerseelen〉は、リヒャルト・シュトラウスの芸術上の象徴的な作品の一つである。古典的で気品があり、演奏者に愛されている。作品はシュトラウスの深く、また熱い感情の特徴を示して、曲全体に聖潔な愛を満たしている。

毎年 11 月の万霊節には、死者の魂が地上に戻ると言われる。死んだ恋人を想い、その生前の情景に向かって手を差し伸べる。忘れられない恋人、美しい時間はもう過ぎ去って二度と戻らない。墓の前に花束を捧げて、帰って来てほしいと、変わらぬ愛の堅固さを表現する。5 月の思い出への追憶に満ちた歌は、感情が込もって人の心を動かす。

西村 理菜 (2 年)

R.シュトラウス / 矢車菊

Richard Strauss (1864-1949) // Kornblumen (Felix Dahn) Op.22-1

ドイツの作家・法制史家ダーンによる 4 篇の詩をシュトラウスが音楽にのせた歌曲集《乙女の花》。本日演奏する〈矢車菊〉はその第 1 曲目にあたる。青い目をした可憐な少女たちを”矢車菊”という花になぞらえ、愛でる心情が描かれており、曲調からも可愛らしく穏やかな印象を感じられる。全 4 曲から成る《乙女の花》では、それぞれ違う魅力を持った女性について、男性目線で歌われているが、女性による演奏が多く見受けられる。他 3 曲では、お転婆に矢車菊をからかう活発な”ポピー”の女性、素朴で真心溢れる”木づた”の女性、ミステリアスで妖精のような”スイレン”の女性、について描かれており、4 曲通して演奏されることも多い。

松本 明音 (1年)

R.シュトラウス / 美しい、けれど冷たいのだ天の星々は

Richard Strauss (1864-1949) // Schön sind, doch kalt die Himmelssterne (Schack) Op.19-3

この曲では、男性が愛する女性への思いを語っている。シャックによるこの詩からは、男性が女性の美しさを、星の光や、秋や春、巡ってくる季節たちがもたらすどんなものより素晴らしいと思っていることが読み取れる。

夜の星々を思わせる静けさと壮大さのある旋律から始まり、愛による葛藤が繰り返し波打つような旋律に表現されていたり、春が訪れ花が開くような転調など、男性の大きな愛が情感溢れる音楽に表現されている。

朝比奈 桃子 (1年)

R.シュトラウス / ツェツィーリエ

Richard Strauss (1864-1949) // Cäcilie (Hart) Op.27-2

R.シュトラウス作曲《4つの歌曲 作品27》より第2曲。ハインリヒ・ハルトによる詩。

主人公が「ツェツィーリエ」という女性に向けた愛の言葉が、全てを焼き尽くすような情熱的な音楽によって表現されている。主人公が彼女を想って不安を感じたり、天に昇るような喜びがあったりと感情の起伏がとても激しい。朗々と語るように転調が繰り返され、オーケストラの壮大さを持って奏でられている。詩の世界観を豊かに紡いでおり、後のオペラ作曲家としてのシュトラウスを彷彿とさせるような作品である。…もし君が知っているなら、燃える口づけを夢見るとは何だろう？目を合わせて愛を確かめ合い、君と共に歩こう。君が来てくれる、それは天に昇るような喜びだ。